

須賀川「ロジマ」誕生10年

須賀川の街中に、路地からにぎわいを。須賀川市の定期市「すがわの路地 de マーケット（通称ロジマ）」は、2015年6月の初開催から間もなく丸10年となる。災害や新型コロナウイルス禍を乗り越え、毎月恒例イベントに成長した。「ロジマ」をきっかけに足を運び、一時は元気のなかった街の変化を感じてもらえたら。関係者はそんな思いを込め運営する。

「稼ぐまちづくり」

毎月第2日曜日、市役所周辺に出店やキッチンカーが軒を連ねる。雑貨やお菓子、衣類、飲食物など店の業種は多種多様。空き店舗や店舗の軒先、休日にはほとんど使われていない駐車場の路地に面した空間で多くの人が行き交い、祭りのような雰囲気漂う。

運営するのは市職員や会社員、地元事業者などの有志でつくる一般社団法人「ロチカラ」。理事を務める大和田卓さん（38）はメンバーは東日本大震災での被災や地方経済の疲弊などの課題に向き合い、街を元気にするために何かが必要か知恵を絞り合った。遊休不動産や空間の有効利用、新しく挑戦したい人の背中を押すテストマーケティングの場、そして「稼ぐまちづくり」としてイベントが企画された。

積極的に声をかけて出店者を募り、初回こそ25店舗ほどだったが1年後には約3倍に。今では100店舗以上が参加するようになった。大和田さんによると成長の秘訣は主に「定期開催」と「ロコミ」にあるという。

増えた移住や起業

イベントの開催日を「毎月第2日曜日」と固定し、

路地に定期市「ロコミ」成長

安い参加料 100店超 * 空き家も活用



毎月第2日曜日に須賀川市役所周辺で開催されている「ロジマ」。市内内外の出店者が自慢の逸品を販売している。



いるが、さらに先を見る。「今後『ロジマ』というコンテンツを生かしてどのようなことができるか。地域課題を解決するアイデアを出したい。街に活力をもたらし挑戦が続く。

月イチ、次回は8日

ロジマは1月と8月を除く毎月第2日曜日に開かれており、次回は8日午前10時～午後3時。同日は市民交流センター「テッテ」で「てのひらマルシェ」も同時開催。出店者などの詳細はホームページやインスタグラムなどで確認できる。

6月5日 福島民友新聞掲載

「ロジマ」は、誰がどんな思いを持って企画されたのですか？

「ロジマ」の開催が10年も続いている秘訣や工夫についてまとめてみましょう。

「ロジマ」には、どんな種類の店舗が出店しているか、ネットなどで調べてみましょう。